

第75回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日 時：平成27年12月25日（金） 13:30～16:00

場 所：奈良県中小企業会館 4F 大会議室

出席者：（委員） 伊東委員、岩本委員、倉橋委員、庄田委員、谷委員、藤次委員、中川委員（委員長）、堀野委員（8名）

（欠席 3名）（五十音順）

（事務局） 県土マネジメント部長、河川政策官 ほか6名

議事：1. 大和川水系曾我葛城圏域における事業再評価

- （1）葛下川河川改修事業
- （2）高田川河川改修事業
- （3）葛城川河川改修事業
- （4）曾我川河川改修事業
- （5）広瀬川河川改修事業
- （6）小金打川河川改修事業

質疑応答：

1. 大和川水系曾我葛城圏域における事業再評価

（1）葛下川河川改修事業

藤次委員 区間②では、残事業延長は今までの整備済区間より短いですが、費用は4倍ぐらいかかる見込みである。原因を説明してほしい。

事務局 整備済区間は土地区画整理事業を行っていたため、補償物件はなかったが、残区間は家屋連たん地であるため、事業費が膨らんでいる。

中川委員長 区間②における事業の進捗に対して、今後の課題は地籍混乱地の解明と用地交渉が考えられるが、進捗状況はいかがか。

事務局 今のところ予定とおりで特に問題はない。

庄田委員 B/Cを算定する際の河川における維持管理費とはどういったものを想定しているのか。

事務局 護岸の老朽化に対する補修、土砂取り、除草等である。マニュアルに準じて建設費に対して一定のパーセンテージを乗じる方法で算出している。

中川委員長 本委員会として事業継続が妥当と判断していいか。

意見集約 事業継続を妥当と判断する。

（2）高田川河川改修事業

中川委員長 平成19年洪水と平成25年洪水の降雨強度を教えてください。

事務局 調べて後日回答する。

中川委員長 通常は、下流から事業を進めるものであるが、ここでは上流を先に進めている。どのような注意を払って施工したのか教えてほしい。

事務局 堤防満杯（余裕高考慮無し）の場合の流下能力を確認し、下流の安全性を検証している。

中川委員長 了解した。しかし、余裕高を考慮しないことは危険を伴うことが考えられるため、応急的・緊急的な対策も講じるなど、今後は気をつけてほしい。

事務局 了解した。

岩本委員 平成19年7月洪水時の浸水域が赤色で塗ってあるところは、本川が破堤して氾濫したのではなく、堤内地に降った雨水が本川のほうに流れて行かないために溜まった状態か。

事務局 そのとおりである。

堀野委員 区間②における流下能力図は工事完了区間の工事を反映させた結果ということであるが、残区間はすでに1/10流量を流下できるように見える。1/10対応はできていて、例えば将来計画の1/50対応のために大きめに工事をしているという考えなのか。そうでなければ、過剰な設計ではないか。

事務局 区間②の残り70mは落差工で下流へのすり付けのため河床を2m程度下げている。また、上流区間はまだ断面不足である。

中川委員長 流量規模が大きいのではないかとかいう点については、別途事務局と話し合っしてほしい。

事務局 了解した。

中川委員長 本委員会として事業継続が妥当と判断していいか。

意見集約 事業継続を妥当と判断する。

（3）葛城川河川改修事業

伊東委員 葛下川、高田川は進捗状況が5割程度と順調に進んでいるが、葛下川から4河川は数字だけを見るとかなり低い状況にある。なぜ進捗が低迷しているのか説明してほしい。

事務局 用地買収が困難を極めているため、進捗が難しい状況にある。区間④において河道拡幅が必要な箇所での用地買収交渉が難航している。

中川委員長 下流区間と懸案箇所を含む区間の両方を同時並行で進めるのは一つの方法であるが、粘り強く交渉することには限界があるとも考えられるため、事業認定も視野に入れなければならないかもしれない。県はどう考えているか？

事務局 粘り強く交渉を続けるが、交渉ができない場合は、事業認定の実施も考えている。

中川委員長 区間④以外の区間②、③、⑤でも進捗率が0%の理由を教えてください。

事務局 これらの区間の主な整備内容は堤防のかさ上げであるが、堤防の上が車道になっているところが多く、今後協議が必要である。また、最も流下能力のない④に執着していたという事情がある。

中川委員長 本委員会として事業継続が妥当と判断していいか。

意見集約 事業継続を妥当と判断する。

(4) 曾我川河川改修事業

中川委員長 区間①の進捗率は0%で、現在は井堰詳細設計を実施中とのことだが、事業に着手されたのはいつか。

事務局 平成25年である。

中川委員長 着手がなぜ平成25年になったのか説明してほしい。

事務局 下流区間で合流する小金打川の逆流防止樋門、上流区間の河床掘削の整備を優先する必要があった。次の段階として曾我川の重井手井堰～小金打川合流点までの整備に着手した。

中川委員長 堰の改修は関係者から了解を得られないことが多いが、ここは何か問題があるのか。

事務局 現在交渉中である。井堰の型式を含む計画については了解いただいている。補償について交渉している段階であるが、今のところ特に問題はない。

堀野委員 p.4の流下能力の距離標とp.4の区間①の距離標は何か違う。基点をどうとられているのか。

事務局 確認して後日報告する。

堀野委員 整備計画流量が上流320m³/sから下流290m³/sに減少しているのは遊水地に流水を30m³/s逃がすということか。

事務局 そのとおりである。

岩本委員 p.5の現地の写真を見ると、上流側の未整備区間は潤いがあるが、整備したところは全く潤いがないと発言をした記憶があるが、今後ここは植生で覆われてくるのか。

事務局 ここでは護岸整備にポーラスコンクリートを適用している。モニタリングを継続する予定である。

中川委員長 本委員会として事業継続が妥当と判断していいか。

意見集約 事業継続を妥当と判断する。

(5) 広瀬川河川改修事業

岩本委員 以前に奈良市内で大きな遊水地を作っていたかと思うが、同じような遊水地を作ることの効果について検討されたか。

事務局 河川整備計画を審議している当初には遊水地も比較案として検討している。まとまった土地がないこと、広瀬川の横断面があまりにも小さく遊水地に入れる量が多過ぎるため比較にはならないほど遊水地の面積が莫大になってしまう等の理由で、遊水地は採用しないという審議をした経過がある。

堀野委員 代替案等の可能性の視点という中で、他の河川に比べると農道用の橋梁が多い。全てを原状復旧という形で改修されるのか、一部数を減らすのか、逆に増やすのか、どの程度の見通しで工事をされるのか。また、井堰はどうか。

事務局 橋梁は各管理者がいるため、数は変わらないと思われる。工夫という点では、基礎を継ぎ足す工法等によりできるだけ架替えをしないなど検討を行ってコストを縮減したいと考えている。

井堰は一つ一つ検討していかないとわからないが、数は変わらない可能性が高い。

中川委員長 コストには橋梁架替えや井堰を改修する経費は考慮されていると考えていいか。

事務局 橋梁や井堰の数を考慮し、仮設費用等の必要な工事費全てを計上している。

中川委員長 現在5%の進捗率だが、すぐに進められ、順調にいきそうだといいか。

事務局 そのとおりである。

中川委員長 本委員会として事業継続が妥当と判断していいか。

意見集約 事業継続を妥当と判断する。

(6) 小金打川河川改修事業

中川委員長 p.4 の写真をみると側溝のような川である。市町村はこの河川を県で管理して欲しいと希望しているのか。

事務局 経緯はわからない。ただ、県管理の河川で本河川と同等規模のものは県内に数多く存在している。

中川委員長 県が管理すべき河川なのかの見直し等も河川整備の次のステップでは必要かと思うが、そのような計画はあるか。

事務局 県が管理をやめて市町村に渡すことはない。ただ、水路のような河川を県が管理しているケースが多いため、今後調べてみたい。

藤次委員 小金打川が氾濫したとしても被害は大きくなく、B/Cも1.2と他の河川と比較して小さいということであれば、予算も限られていると思うので、優先順位は低いのではないか。河川改修における優先順位の考え方があれば聞かせてほしい。

事務局 優先度や緊急度から優先順位を決めて事業化している。重要度は市街地等の土地利用から、緊急度は浸水被害の頻度から判断している。そういった観点で県としても選択と集中を行っている。

中川委員長 本委員会として事業継続が妥当と判断していいか。

意見集約 事業継続を妥当と判断する。

以上